公益財団法人東京しごと財団委託事業 東京都補助事業

東京ジョブコーチ

2025秋
第27号

東京ジョブコーチ職場定着支援事業　広報紙（年2回発行）

―東京障害者職業能力開発校について教えてください。

森田：当校の特色として、「多様な訓練」、「手厚い支援」、「確かな就職」の３つがあげられます。
一つ目の特色は「多様な訓練」。専門知識や技能を身につけ就職を目指す方が、さまざまな分野の知識を習得するため、幅広い業種や職種に対応した訓練科目が１２科目あります（右欄参照）。「就業支援科」はすぐに就職はなかなか難しいが、就職に向けてまずは職業準備性を身につける方のための３か月のコース。「職域開発科」は個別の状況に応じた支援を行いながら、就職を目指す方のコースで、精神障害者、発達障害者のみを対象としています。月曜から金曜まで、９時５分から１６時３０分までしっかりと訓練に取り組んでいただき、必要なスキルや職業準備性を身につけていただいています。ＯＡ実務（重度視覚障害者向けの訓練科目）については外部に委託しています。

二つ目の特色は「手厚い支援」。各科目に訓練指導員、講師の他、就職支援や生活指導を専門に行うスタッフがいます。生活指導相談員は必要な医療を受けながら健康管理をしっかり行っていただくための支援、規則正しい生活習慣を身につけるための支援、対人コミュニケーション支援など、職業準備性を整えるための支援を行います。就職支援員は就職に向けて例えば模擬面接をしたり、応募先企業に同行したり、無事に内定を受けて就職した後も一定期間の定着支援を行います。訓練指導員・講師と就職支援員、生活指導相談員が“三位一体”となって、連携して支援にあたる体制を設けています。

三つ目の特色は「確かな就職」。令和５年度の就職率が84%、令和６年度の就職率は７６%と例年約８割という高い就職率となっています。就職に向けての支援体制としては、入校後おおよそ１か月経ちますと、就職に向けた「就職ガイダンス」を各科で行います。その次のステップとして、校内で年に４回、企業説明会を実施しています。また東京労働局主催の合同面接会が年に２回開催されており、企業の状況を知ってもらい、実際の応募につなげていただいています。応募前も、企業の見学に行ったり、職場実習を受けていただいたりして、生徒を支援する体制を整えています。就職後は一年程度、定着に向けての支援を行っています。就職活動、就職後定着というステップを生徒の皆さんと“二人三脚”で支援しています。

―職場実習について教えてください。

栗原：基本的にはどの生徒も職場実習に行くべきだと思っています。ただ企業の方で受け入れ体制がない場合には、見学に行かせていただきます。見学も難しい企業もなかにはありますが、やはり企業のことをしっかり知る機会がないまま就職をしてしまうと、その後のミスマッチにもつながりかねないので、見学・職場実習はとても大切だと思っています。

―ご自身の障害理解や受容の部分で、未獲得の方がいらっしゃる場合に、就職に結びつけるにあたっての課題と自己理解を進めるプロセスを教えてください。

栗原：難しい質問ですね。生徒一人ひとり自己理解に個人差があります。障害特性も違いますので、同じやり方が別の生徒には通じません。各クラスに生活指導相談員が配置されており、その職員が中心となって生徒の行動観察を経て自己理解がどこまで進んでいるのか、このアプローチはこの生徒に有効か、といった見立てを行います。その見立てを他のスタッフと共有し、就職支援員が面接の練習などの機会を設けて自己理解を促すような提案をしたり、指導員が訓練の中で理解を促すような声がけをしたり、それぞれの役割に応じて、生徒に対応しています。
我々も毎日が試行錯誤です。特効薬はありません。

―訓練プログラムの中で、成功体験を積むアプローチはありますか。

小泉：私が担当していたものづくり技術科ではＮＣ加工で金属の真鍮の削り出しを行っているのですが、作品づくりをグループワークで進めています。隣の製パン科の生徒から「パンの付加価値を上げるには焼き印などがあればよいのでは」という提案があり、パンの付加価値を上げるための授業も面白いのではないか。そこで製パン科の先生とも協力し、ものづくり技術科との間で受注・発注という疑似体験を訓練カリキュラムに設けました。成功体験を積むにはカリキュラムの授業の内容をいかに工夫してできるか、得意なところを見てあげるかがすごく大事です。入校して最初の１～２週間はラポールの形成、信頼関係を構築する時期で本当に大切だと思っています。集合訓練を主体としたカリキュラムが多かったのですが、その中で個別の対応の必要性はかなり増えてきていると思います。今後の課題と思っています。

（左から）東京障害者職業開発校　能力開発課長　森田　和治様
東京都産業労働局　雇用就業部能力開発課課長代理　小泉　賢祐様（元ものづくり技術科指導員）
東京障害者職業開発校　就職・生活指導担当課長代理　栗原　裕美様
東京障害者職業開発校　能力開発課　職場定着支援員　岡崎　淳様

国立・都営 東京障害者職業能力開発校

障害のある方を対象とした職業訓練施設。国が設置し、都が運営している。

【科目】就業支援科、職域開発科、調理・清掃サービス科、オフィスワーク科、ビジネスアプリ開発科、ビジネス総合事務科、グラフィックDTP科、ものづくり技術科、建築CAD科、製パン科、OA実務科、実務作業科

【所在地】
東京都小平市小川西町２丁目３４番地１号

【URL】
https://www.hataraku.metro.tokyo.lg.jp/school/handi/

―今回、東京ジョブコーチ（以下TJC）をご利用いただいた方も、ものづくり技術科を修了後に就職された方でした。

小泉：この方には、学校に来たらまず何をするのかということから、きっちり落とし込む必要がありました。始業チャイムと同時に訓練を開始できるようにするため、「ロッカーで着替える」レベルからのすべての行動を作業分解表に書いてもらい、ロッカーと机の上に貼ってもらいました。私どもの指示で貼るのではなく、本人が言い出し、実行できるように仕向けています。「どうしたらできるかな？」と誘導し、「見えるところに貼ったほうがいいよね」と提案したところ、自分から貼ることができました。真面目な方なので徐々にできるようになりましたが、それまで半年くらいかかっています。
岡崎：TJC からも職場で掲示物を活用したと報告がありました。

―TJC と本人で「仕事上で注意すべきところは何でしょうか？」と一緒に考えながら作り、本人に扉に貼っていただきました。鉄道がお好きな方で、踏切の画像も有効だったと思います。

小泉：同じ目線に立って、本人の気づきを促す。それがないと主体的に動くことは難しいと思います。
岡崎：TJC は課題がある本人の立場で一緒に考えてくれたのだなと。必要だからやりなさいと伝えるだけでは無理だったと思います。

―打ち合わせ時に企業ご担当の方から「まずは２か月で TJC 支援を区切らせてほしい。それまでに改善の兆しがなければ契約更新は難しい。一定の改善が見られれば、その翌月は TJC の力を借りずに自分たちだけでやっていけるか確認したい。それを判断したいので、本人だけでなく、店舗スタッフにも指導してほしい」と依頼を受けました。

岡崎：マネージャーは「更新は難しいかも」とおっしゃる一方で、「辞めさせたくない」ともおっしゃっていました。せっかく来てもらったし、女性では難しい体力の部分でとても助かっている、頼りになると。ＴＪＣ支援が始まり２か月後の中間会議で「効果はありましたか」と確認したところ、改善の兆しが見られたので、更新が可能となりました。ああ、本当に良かったと思いました。

―現場のスタッフ皆さんが「TJC の支援方法を学びたい」というお気持ちを強く持っていらしたことも変化の要因です。

岡崎：終結会議で企業ご担当の方がおっしゃっていましたね。TJC にアドバイスいただいたこと、実際の本人との接し方をみて自分たちも、どのような言葉で、どのように伝えていけばよいか非常に勉強になりました。それを参考にしてこれから自分たちでやっていきますと。あれが一番うれしかった。我々はずっとつきっきりで見てあげることはできませんから、本当に TJC を利用してよかったと思います。約１年間にわたって 20 回支援に入っていただきました。

―職場におけるナチュラルサポートが広がってゆく過程を目の当たりにしました。支援初期2か月は集中的に本人課題に取り組み、中間会議以降は月１回程度短い時間で訪問し、ご相談やご質問を受け、対応方法をアドバイスするなど、環境支援の形に変わってゆきましたね。
そのほかに TJC をお使いいただいてよかった点はありますか。

岡崎：学校としても修了生に対して定着支援を行っています。ただ、やはり限度はあります。企業もどうしていいかわからず悩んでいました。そこで TJC に入ってもらって、企業も私たちも、日ごろ手の届かない所、及ばない所を、本当にきめ細かく配慮していただいたのがよかった。それと事前の打ち合わせで、何に困っているか、どういった方向にしたいかなど、企業、私たち、本人から丁寧に話を聞いていただきました。支援レポートもありがとうございました。

森田：TJC の支援の規模はどれくらいですか？

―現在、80 名ほどTJC登録があり、キャリアとしては退職後の方が多いです。30 代後半から60代後半の方が中心に活動しています。令和６年度の総支援件数は島しょ部も含め、942件でした。

森田：支援対象となる方は、就職して半年とか初期の方が多いのか、それとも何年か経ってからの方もいらっしゃるのでしょうか？

―そのような方もいらっしゃいますし、ケースバイケースです。20 回で最大２回まで使えるシステムを考慮すると、就職初期にしっかりと入らせてもらい、２回目の支援はその後、何かフェーズが変わった時に使っていただく事が多いと説明しています。

森田：ＴＪＣは今回の事例でもかなりきめ細かく対応いただき、それだけスタッフも質的にも量的にも充足されていると思いますし、きめ細かくやっていただけるサービスだと思っています。私たちも生徒が就職して終わりではなく、一番離職の可能性が高い半年から１年くらいまでを対象期間として定着支援に取り組んでいます。（修了・就職後）数年経って、何かの事情で就労継続が危うい場合、なかなか私たちの所には相談はないけれど、時にくることもあります。だけど在校時の情報も古くなっていて、現在の課題とは異なっていたり、当時関わっていた職員もすでにいなかったりします。定着支援に限界がある中で、ＴＪＣ支援事業として定着支援をやっていただけるのは、非常に役割が大きいと思います。

―就職当初に地域の支援機関につながっていない方もいらっしゃるかもしれません。数年後に課題が表出し、先々の就業生活の中で必要性がある方の場合、TJCが支援に入りながら、本人の同意を経た上で支援機関登録に同行させてもらっています。支援の網目に落ちないように、本人に必要な支援の手立てを一緒に考えていくネットワークを作りながら進めています。本人を中心にとらえ、連携させてもらえればと思っています。送り出していくお立場の学校の存在も心強いと感じております。今後ともよろしくお願いいたします。（取材：令和7年6月）

東京ジョブコーチの支援に関するご相談、ご依頼はこちらへ

～お知らせ～

4月より着任いたしました。東京ジョブコーチ支援センター長の菊地でございます。

日頃より障害者雇用についてご支援・ご協力を賜りありがとうございます。

当センターは社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会が運営を開始して17年目を迎えました。

今後も支援対象者の皆様や企業様が安心してセンターをご利用いただけるよう職員一同、気を引き締めて参ります。どうぞよろしくお願いします。

さて、段階的な障害者雇用率の引き上げにより来年の7月より2.5%から2.7%に、また除外率についても今年の4月より各業種に設定されてる除外率が一律10%引き下げられるなど、障害者の雇用環境は目まぐるしく変化しています。このような中ではございますが、東京ジョブコーチ支援センターは、この変化を追い風とし、安定した雇用継続（定着支援事業）できるように努力してまいります。

東京ジョブコーチ支援センター　　センター長　菊地　洋充

表紙の絵 作品名： ススキノ
作者 ： ノ さん
作品説明 ： 季節感が出ればいいなと思い、秋の空とススキを描きました。

作者自画像

＜自己紹介＞
株式会社ベルシステム24で働き始めて、もうすぐ2年経ちます。テレコミュニケーターが多く在籍するセンター内で、庶務業務を行っています。障害があることを伝えて働くのは今回が初めてなのですが、相談内容から勤務時間や日数等を調整していただいており、とても感謝しています。絵を描くのが趣味なので、仕事とバランスをとりながら続けて行きたいです。

＜事業所の紹介＞
中野駅近くにあり、オフィスビルに面してとても広い緑地公園があるので癒されます。

Contact us

▶東京ジョブコーチ事業利用のご相談、ご依頼に関すること
東京ジョブコーチ支援センター
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-11-2 フロンティア代々木3階
TEL(03)3378-7057 FAX(03)3378-7058
Eメール tokyo-jc@ikuseikai-tky.or.jp
ホームページ https://tokyojc.ikuseikai-tky.or.jp/

▶事業全般に関すること
公益財団法人 東京しごと財団
総合支援部 障害者就業支援課 コーディネート事業係
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-10-3 東京しごとセンター8階
TEL(03)5211-2682
ホームページ https://www.shigotozaidan.or.jp/shkn/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK